

会議名	令和元年度第1回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和元年8月1日（木） 午後2時00分～午後3時50分
開催場所	香川県広域水道企業団坂出事務所 3階大会議室
出席委員	長谷川 修一，國時 忠能，木原 光治，新田 一也，林 美模，古田 桂子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

（都合によりNPO法人わははネット理事長の中橋委員は欠席）

2. 市長挨拶

3. 委員紹介

4. 会長・副会長選任

●事務局

坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により会長が、会長の指名により副会長が選任された。

会長 長谷川 修一 委員 副会長 國時 忠能 委員

5. 議題

（1）地方創生交付金に係る事業の効果検証について

●会長

それでは、議題（1）について、事務局より説明願いたい。

●事務局

(資料1-1および資料1-2により説明)

●会長

ひとつひとつ、有効かどうかお聞きしたいが、まず、「カヌーのまち さかいで推進事業」について、有効であったと判断してよろしいか。

(委員一同承認)

●会長

続いて、「交流の里 おうごし 施設整備事業」について、有効であったと判断してよろしいか。

(委員一同承認)

●会長

ともに有効だと判断していただいた。

それぞれの事業について、評価できる点、改善できる点があれば、ご意見いただきたい。

●委員

カヌー競技場は、競技場としては最高の場所だが、競技者を育てるということで、一般の人たちにもっと開放して、イベントをやって親しんでもらう、ドラゴンカヌーは有効なイベントだと思うが、普段から、夏休みなどに、子どもたちに向けたカヌーのプログラム、イベントなどももっとどんどんやったほうがいいのではないか。素晴らしい湖なので、もっとどんどん利用すればいいと思う。

●生涯学習課

香川県カヌー協会や坂出市カヌー協会の協力を得て、親子カヌー教室や段ボールカヌー大会等を行っているところである。そのほか、綾川ではクリーンリバーカヌー大会を行っている。綾川をカヌー艇で渡るもので、綾川の清掃も兼ねたものとなっている。いずれにしても、競技人口の底辺拡大と広報を十分にやっていきたい。

●会長

府中湖は、スマートインターチェンジのある府中湖パーキングエリアから近く、非常に交通の便が良いところだが、うまく活用する施策などはあるのか。

●生涯学習課

スマートインターについては、設置にあたって本市と綾川町が協議して設置したとは聞いているが、結果としてはカヌー競技場から非常に近いところにあるので、アクセス的には恵まれていると考えている。

●会長

そのあたりの地の利を使ってもらえればと思う。

地方創生交付金に関する効果検証についてはこれで終わりたい。

続いて、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、K P I の達成状況および第1期の戦略の効果検証について、事務局より説明を願いたい。

●事務局

(資料2および坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略により説明)

●委員

駅前にマンションが新たに建てられたが、完売になったと聞いている。駅周辺のマンション建設により、市外からの転入者がどれくらい増えたのか。

●事務局

直接の回答ではないが、5月から駅前に新しく建設されたマンションの入居が開始されたが、約100人が入居しており、うち市外からの転入者が3割程度を占めている。すべてのマンションの住民がそれにあてはまるとは限らないが、今回新築されたものについては約3割が市外から、となっている。

●委員

就職フェアについて、私も毎年参加しているが、資料の実績によると、坂出市内の企業に就職した人数は増加している。

しかし、今年は、参加した学生の数がかなり少ないと感じたことから、もっとアピールする必要があるのではないか。自分は銀行業だが、廃業される個人事業主も増えており、また後継者が不足してお困りになっているところも多いため、いかに学生に魅力ある企業や職場を紹介できるかが大事であると思う。今後、もう少し、参加者を増やす取組は考えられないのか。

●企業立地推進室

就職フェアの学生の参加者は29年度が65名、30年度は今年の3月に開催したが、そのときは23名ということで、前年に比べると半分以下に減っている状況である。

いろいろな関係機関に問い合わせると、学生のフェアや就職説明会への参加意欲自体が減っている、特に最近はスマートフォンやパソコンで情報収集する学生が増えたこと、企業がインターネットでの情報発信を主に行っていることなどがある。

市の就職フェアをこのままで良いとは考えているものではなく、今は就職活動の早期化と言われているので、次回はもう少し間口を広げて、今までは3年生や4年生を対象にしてきたが、より低い学年の、2年生や1年生をと考えている。将来的には高校生などにも気軽に来てもらって、企業の情報に接していただけるような、もう少し間口を広げたものにしていきたいと、構想の段階ではあるが考えている。

●会長

今は大学では、非常に就職が早く決まっており、自分もいろんな企業のかたから頼まれるが、too late (トゥーレイト) だと言っている。就職活動期に就職フェアを開催してももう遅く、その前からやらないといけない。最近はインターンシップなどに企業も取り組んでおり、大学としてもできるだけ参加するよう学生に勧めている。

転出が多いのは、高校を卒業してからである。彼らに対して、地元でインターンシップをすると、大学の単位になる、というような仕組みを作ってあげるのいいのではないかと。大学は大学で、インターンシップの情報を学生に流しているが、大学の所在地の企業を紹介するとか、これから特にどういう大学に進学しているか、大学を調べて、県外の大学のインターンシップを地元企業と協力してできると、帰省の際にインターンシップに参加すると宿泊費や交通費もかからないので、学生にとってはやりやすいと思う。

●委員

企業立地促進助成金について、29年度には1,800万円程度を使って5名の採用、30年度には8,700万円を使って同じく5名の採用だったということで、金額の助成に対する採用数がどうなっているのか、補助金の仕組みについて説明してほしい。

また、算数オリンピックが坂出では行われているが、昨日、学力調査の結果が出て、英語を聞く力が全国平均として落ちているとの報道があった。坂出市はサウサリート市と姉妹都市を結んでいるのだから、それを生かして今後英語に特化したイベントや催し物があったらいいのではないかと。

●企業立地推進室

助成金の対象や額、そして雇用の人数などの補助金の仕組みについて簡単に説明すると、助成金の対象業種としては6業種あり、工場、試験研究施設、運輸施設、卸売業の関連施設やにぎわい施設とあり、それぞれ、施設を作るときの投下固定資産も変わってくる。簡単に言えば、補助金の対象になるには、工場について、大企業であれば、投下固定資産が3億円以上必要であり、中小企業であれば、投下固定資産が1億円以上必要になる。情報関連施設であれば金額の要件がなかったりと、対象業種によって差がある。加えて、投下固定資産、建物や設備を作っただけでは助成の対象にはならず、雇用の関係で言うと、工場の大企業であれば、市内在住の新規常用雇用者を5人以上、半年以上雇用することが必要、中小企業であれば2人以上雇用することが必要で雇用の人数も基準に入っている。

現在の企業の状況としては、助成金の対象になっており、新規の常用雇用者数も条件以上の人数を雇用したいと考えている企業は多くあるが、坂出市内在住者という条件があり採用希望者を探すのが厳しい状況である。雇用者数を満たせなかったために助成金を辞退された企業も過去にはある。

●事務局

英語に特化したイベントについて、今まさにサウサリート市から11名の交換留学生が坂出市に来ている。隔年で行事をやっているが、その際にはホームステイ先や地元の高校生との交流を行っている。また、数年前には、サウサリートから交換留学生として来坂したかたが、再び坂出市を訪れて、各学校といろいろな交流をしたという経緯もある。坂出市の国際交流協会の中で、いろいろなイベント、英語に親しめるようなイベントについても研究していきたい。

●委員

健診事業のうち、1歳6か月と3歳児の健康診査について、高い数値にはなっているが、100%に届かないのには何か理由があるのか。また、図書館のブックスタート事業についても、高い数値だと思うが、事業内容について具体的に教えてもらいたい。

●けんこう課

健康診査の受診率について、30年度の実績は、対象者364人のうち、受診したかたが360人、未受診者が4人、現状値では98.9%で、目標値は超えているが、4名の未受診者がいる状況である。

未受診者には、市から働きかけを個別にしており、どうしても来られない場合には、保健師が自宅に訪問し支援をしている。全員の受診まではできていない。

●文化振興課

ブックスタート事業は、3・4か月健診時に、図書館の職員がその場に赴き、絵本3冊を選んで贈呈するものであり、実際にその場で読み聞かせも行っている。

●委員

1歳6か月、3歳児の健康診査は、その訪問の数字も合わせると、およそ100%になるのか。

●けんこう課

訪問等で、市からすべてのかたに働きかけを行っている。

●委員

瀬戸内国際芸術祭、春会期、沙弥島は非常に良かったため、北川フラムさんとしても、本当は夏も秋もやってほしかったというような希望が出ていたようである。沙弥島は作品の内容が良くて、歩きやすい、回りやすいという環境だったので、できれば夏はちょっと暑い、秋くらいに、なんらかの形で参加してもらえたら、観光客も来るだろうし、すごくいいインパクトになるのでは。観光入込客数の数値を見ると目標に達していないので、積極的に、あくまで要望だが、臨機応変に対応できないものかと思う。

●会長

KPIは今年度が最終になるのか。

●事務局

現行計画は令和元年度までであるため、新年度にもう1度検証を行う。

●会長

木を見て森を見ずになってはいけないので、全体的な総合戦略の効果検証も、よろしく
お願いしたい。

次第の5の(3)第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定および坂出市人
口ビジョンの見直しについて、事務局より説明願いたい。

●事務局

(資料3および資料5により説明)

●会長

ただいまの事務局の提案では、総合戦略については、第1期計画を基本として先ほどの
国の考え方に準じて第2期を策定する。一方、人口ビジョンについては、現行の人口ビジ
ョンを継承し、次期まちづくり基本構想策定に合わせて見直しを図る、ということだが、
これに対して意見があればお願いしたい。

私のほうから、議論が活性化するように意見を申し上げると、国の総合戦略について、
なかなか成果が上がっておらず、結局東京圏への集中はどんどん進行している。資料では
新たな施策を地方に人・お金をといることをいろいろ書いているが、これに準じていたら、
あまり成果が上がらないのではないか。やはり準じながらも、自分たちで考えないといけ
ないところはしっかり考えて、第2期計画をやらないと、5年後また減っているというこ
とになりかねないのではないか、ますます東京圏に集中するのではないか。

資料5について、転入者数はいろいろ努力して横ばいのように見えるが、実は横ばいで
はないと思う。というのは、18歳人口は減ってきており、主な転出者は18歳、高校を
出たところの人口であるため、18歳の転出の率としてはどんどん増えているのではない
かと。ということを考えると、これから国に準じてやるのもいいけれども、やはり地方と
しての課題、坂出市の課題としては転出をいかに抑えていくか、あるいは転出しても戻っ

てくる子どもたちをいかに育てるかということに力を入れないと、転出については今のところ無防備な状態なのではないかという気がしてならない。

●事務局

まず、国の総合戦略との整合、準じてということだが、日本全体が人口減少社会である中で少子高齢化も進んでいる。その状況で、総合戦略を策定したにもかかわらず、東京圏への集中が是正されていない、まさに日本の現状だと思われる。

坂出市としても、日本の、香川県の一部であるから、全くの反対方向を向いて進むわけにはいかないため、大きな国の考え方は十分に勘案する必要がある。ただ、坂出市がいかに主体性、自主性を持って現状の課題に取り組むかについては、十分議論しながら次期計画の策定に取り組んでいかなければならないと考えており、国とまったく同じような方向で策定していけば良いとは考えていない。

また、転入者数については各種施策による成果もあり、割合的には増加傾向が見られる。子どもが戻ってくるような考え方も、取り入れられるものは取り入れてまいりたい。長期的なビジョンが必要となってくるところだが、総合戦略は5年間の計画で定めるものであり、どこまで長期的なものを反映していけるのか、十分検討しながら進めてまいりたい。

長期的な展望となると、まちづくり基本構想という計画があるため、反映させられるものは反映させ、総合戦略の中で定めるべきものは定めるとさびわけをしながら、進めていきたい。

●会長

ただ、5年スパンでできないことがあっても、この問題については20年スパンで考えないといけない問題である。

20年後、どれだけ子どもが生まれるかは、いま、たとえば10歳程度の子どもたちが20年後に母親や父親になるわけなので、5年ごとのスパンで考えるのは行政として当然と思うが、20年後というスパンも入れていかないといけない。

●委員

会長へのお願いだが、坂出市には香川大学附属小・中学校があるが、市内に大学が1校もないため、坂出市に香川大学の分校を持つてくることはできないのか。

●会長

非常に難しいが、大事な質問である。いま、東京圏に大学が集中して、子どもたちが吸い取られている。東京圏に行くと、そこで就職して帰ってこなくなるが、都会で結婚して子育てしやすいかとなるとそうではなく、田舎のほうが結婚・子育てしやすい。東京圏に一極集中して、地方の子どもたちを吸い上げて、人口減少してしまっているのが今の状況である。

また、国は地方の国立大学を統廃合しようとしている。18歳人口が減るから、そんなに地方に大学は要らないのではと。しかし、地方に人が集まるほうが、地方の方が生産性が高く結婚・子育てしやすい。もっと地方に大学を作ったほうが良いのではないかと、地方からも声をあげてもらおうと香川大学としても動きやすい。

●委員

国や県の指針に沿っていくと、おそらくほとんど横並びの同じような戦略になるが、実際に地方創生のモデルとして取り上げられている市町は、まったく独自の、国の枠組みを超えるような発想でやっている。

例えば、離島の海士町だが、どうして東京から人がたくさん来るんだろうと思うようなところで、しかも大学へ行くための塾をやり、東京大学などの有名大学に行って、その後帰ってきてもらう戦略をやっている。まず坂出市オリジナルの発想を入れてほしい。

人口ビジョンの16、17ページを見ると、新築の住宅戸数の比較があり、丸亀市と坂出市、宇多津町では、丸亀市との比較は難しいが、宇多津町が圧倒的に坂出を凌駕している。数字を入れて発奮するのも良いが、坂出市は昼間人口が非常に高いことから、働く人たちをいかに住まわせるか、住環境がとても大事となる。安心・安全、そして魅力、買い物しやすい、子育てしやすい、魅力のあるまちに少しでも近づけるため、もっと大胆な発想を提案してほしい。

●会長

今後のスケジュールについて事務局に説明を求める。

●事務局

今後のスケジュールを提示する。

今年度中に策定する必要があり、令和2年2月を最終としており、確定までにパブリッ

クコメントを実施したいと考えている。本日が第1回目で、その後ご意見をいただいたうえで素案を作成し修正していく場合、12月末までに今日を除いて3回程度開催するとなると、9月から10月にかけて開催する必要がある、以降1か月ごとに開催していきたいと考えている。

●会長

今年度策定する必要がある、年内に素案を作成してパブリックコメントに移っていく必要がある。ただ、次回が9月下旬となると2か月もないのでかなりタイトで、第1期の少しバージョンアップしたものが出来、坂出らしさが出るのか不安である。おそらく、BCP（事業継続計画）も同じだが、担当部署が作成して、各部署に確認して策定すると実効性のない計画になりかねない。この2か月が勝負になると思う。

●委員

坂出らしいと言える形で何か出してほしい。予算や人の関係でできること・できないことはあると思うが、目標は目標なので、できるだけ高いところに掲げてそれに向かって進むように、坂出オリジナルのものを知恵をしばって出してほしい。

●会長

香川大学では、大学院改革のコンセプトを作成するため、関係者だけが集まるのではなく、教員、職員、学生、学校外の人が集まってグループを作り、アイデアを出すマラソン（アイデアソン）を1日かけてやっている。一つにはマスメディアへの宣伝もあるが、やっているうちに教員だけではなく学生も学校外の人も、こうやったらいいとアイデアを出してくれる。今までにない、坂出らしさが出てくるのではないかと。ぜひ検討してもらいたい。

スケジュールについては、総合戦略の素案を年度内に作成ということになる。

その他について何かあれば事務局から説明をお願いしたい。

●事務局

第2回会議のおおまかな日程は事務局から委員に調整・提示する。

6. 閉会